

## 新潟大学養護教諭特別科学生の登山実習について

大 橋 正 春

### 1. はじめに

養護教諭特別科学生の登山実習をはじめから、10年が経過した。大学を卒業して、養護教諭として学校に入れば、登山や自然体験活動等の行事で子ども達の引率をしなければならない。そのことを考慮して妙高登山を計画したのが始まりである。2泊3日の日程で1日目は妙高の黒沢ヒュッテまで、2日目は火打山往復、3日目は下山というゆっくりとした日程を立てて実施した。しかし、普段運動をしていない学生にとっては、なかなかきびしい登山であったにちがいない。登山を全く経験していないのと、1度でも経験しているのではいろいろの面で将来役に立つことがあると信じている。登山をしていると、時々小学生の登山と出会うことがあるが、子ども達は意外と軽やかに登っている子が多い中、将来はあのように元気な子どもやバテた子どもの面倒も見なければならないのが養護教諭の役目になることを学生達も少なからず実感していたと思われる。今年度、文部科学省は青少年体験活動総合プラン小学校長期自然体験活動支援プロジェクトとして、自然体験活動指導者養成事業を全国で開催しており、今後小学校で長期自然体験活動が実施されるものと期待される。なにはともあれ、野外で実施される活動は、まずいかに経験しているかが問われ計画から実施まで綿密に準備されなければならない。このような意味からも毎年実施される、養護教諭特別科学生の登山実習でアンケート調査をもとにプログラム内容を検討し、今後の資料とするものである。

### 2. 研究方法

#### ○調査方法

平成20年8月11日(月)から8月13日(水)の2泊3日の日程で実施された新潟大学養護教諭特別科の登山実習の参加者42名に対し、5段階評定尺度法による質問紙を使用して調査を実施し、自由記述による分析を行った。

### 3. 登山実習の日程及び活動内容について

#### 1日目

6:50	西門集合
7:00	出発
8:50	米山PA休憩
9:10	米山PA出発
10:20	ナガサキロッジ到着
10:40	ナガサキロッジ出発

- 11:10 笹ヶ峰到着
- 11:30 笹ヶ峰出発
- 12:40 黒沢到着 (昼食)
- 13:40 十二曲り中間点休憩
- 14:40 富士見平休憩
- 15:30 黒沢ヒュッテ到着  
自由時間
- 18:00 夕食
- 20:00 ミーティング・星座観察
- 21:00 就寝

## 2日目

- 5:30 起床
- 6:00 朝食
- 7:00 ヒュッテ出発 火打山登山
- 11:30 火打山山頂到着 昼食
- 12:30 下山開始 班行動
- 15:30 ヒュッテ到着 休憩  
自由時間
- 18:00 夕食
- 20:00 ミーティング
- 21:30 就寝

## 3日目

- 5:00 起床
- 5:30 朝食 パッキング (下山準備)
- 6:10 ヒュッテ出発
- 11:30 笹ヶ峰到着
- 12:30 ナガサキロッジ到着  
昼食
- 15:30 ナガサキロッジ出発
- 18:00 西門到着 解散

1日目は6:50西門にリュックを背負い下山して温泉に入る風呂道具を片手に少々緊張ぎみに学生が集合してきた。教官2名、補助学生2名、学生42名の登山実習である。11:00に標高1,300mの笹ヶ峰の駐車場に到着して、出発準備を整えた。笹ヶ峰から黒沢までの登山道は、ほとんどが尾瀬の木道のようにしっかりと整備されているが、登るほうとしてはあまりに整備されすぎて、自然の土と比べると歩きにくいように感じられる。しかし、近年高齢者の登山人口の増加等により、安全性と自然保護の立場からやむを得ないものと考えられる。笹ヶ峰を出発して2回休憩をとり、約1時間で黒沢の昼食地点に到着した。班ごとにそれぞれ場所を確保して楽しそうにおにぎりをほらばる姿が印象深く残っている。写真2の黒沢の水は非常に澄んでいてきれいであり、とても冷たく10秒も手を水の中に入れておくことはできないほどである。

黒沢での昼食後、いよいよ登山の本番である。十二曲りにかけて急な登りが延々と続き学生もかなりばてていた。途中水分補給を忘れずにこまめに水分を取るように指示し徹底させた。さらに、十二曲りの最大の難所である「がけ」では、両手を使い木の根もしっかりと握るようにアドヴァイスをすると同時に、補助学生を配置し安全を期した。その後、約1時間後に富士見平に到着した。しかし、5、6人の学生が疲労のためかなり遅れているとの情報が入り、たつぷりと休憩をとることにしたが、体が冷えてきたのでやむを得ず



写真1 登山途中の休憩地点



写真4 植木さんによる歩き方講習



写真2 黒沢での昼食風景



写真5 火打山をバックに



写真3 黒沢湿原にて



写真6 火打山中間点



写真7 火打山山頂にて



写真9 ナガサキロッジでの昼食風景



写真8 黒沢ヒュッテ全員集合

出発することとした。富士見平からは下りなので足が滑らないように用心して降りた。降りていくと突然視界がひらけて写真3の黒沢湿原に出ると、どの実習でも必ず「すごい」との歓声があがるほどすばらしい景観である。ここまで来ると今日の目的地である黒沢ヒュッテまではすぐであり、学生の歩きも軽やかになってくるのがわかるほどである。15:30頃に黒沢ヒュッテに到着した。黒沢ヒュッテはちょうど標高2,000mの地点にあるので、分かりやすく、またよくここまで登ってきたというのが実感である。学生もよくがんばったとほめてあげたい。しかし、遅れをとった後続がヒュッテに到着したのは、約2時間遅れの17:00過ぎであったことは、来年度の大きな課題として受け止めなければならない事項である。18:00から待望の夕食である。黒沢ヒュッテの食事はいわゆる山小屋の食事としてはAランクに値する食事であり、丁寧に手をかけて愛情のこもった食事を出していただくので、苦労して登ってきたかがあるといつも考えさせられる。20:00からのミーティングでは、黒沢ヒュッテのオーナーでありプロスキーヤーの植木毅さんから、自然について山の生き方等についてのお話と、貴重なビデオもを見せていただいた。2日目は5:30に起床し、6:00朝食、火打山登山の準備をして、7:00にヒュッテを出発した。写真4にあるように出発前には植木さんから山の登りと足の使い方を教えていただき、学生も勇んで出発した。まず、目の前の茶臼山を登り、次に続いている黒沢岳を登るのだが、朝一番でまだ体も目覚めてなく最初はかなりきつい登りであった。約1時

間後もう一つの山小屋である高谷池ヒュッテに到着した。休憩をとりあめやビスケット等を口にいよいよ火打山登山の開始である。高谷池ヒュッテの目の前に火打山が見えるのだが、頂上までは尾根が長くなかなか手強い登山である。しかし、妙高山に比べればなだらかでゆっくりと登るのには、別科学生には適した山といえよう。途中天狗の庭を通り、写真5にあるように、8月なのにまだ雪が残っており山の環境の違いに学生達もおどろいた様子がうかがえた。高谷池ヒュッテを出発して約1時間、尾根を通りやっとなだらかの火打山のかたにたどり着いた。この辺は背の低いえ松やみやまはんの木が育っているだけで、ほかには「ウサギギク」、「ミョウコウトリカブト」、「ヤマハハコ」等の高山植物がとてもきれいだ。運がよければ「ライチョウ」にも会えるのだが、今回は見ることができず残念であった。11時過ぎに山頂に到着し、新潟県で二番目に高い山(2,462m)を登りきった学生の顔は生き生きとしてまぶしかったことが思い出される。また、全員が登頂できたことは称賛に値することである。班ごとに昼食をとり、下山も班ごとに行動して全員で協力して黒沢ヒュッテまで帰ることとした。16時頃には全員が帰着してお互いのがんばりを喜び合っていた。18:00から夕食、20:00ミーティングをして、植木さんをまじえて山の話で盛り上がった。

3日目は、下山である。5時に起床して5:30朝食、朝食は黒沢ヒュッテ自慢のクレープであり、植木さんが夜中に全員の分をフライパンで焼いてくれたとのこと、なんとも愛情を感じる朝食であった。パッキングを整え大人数のため、下山に時間がかかることを考えて早めに出発することとした。6時過ぎに黒沢ヒュッテを出発し、黒沢湿原、富士見平、十二曲り、黒沢と無事に順調に下山することができ、笹ヶ峰には11時過ぎには全員が到着することができた。バスに乗り12時頃にナガサキロッジに到着して、念願の温泉に班ごとに入ることができた。風呂に入ることは当たり前であるが、登山をし2日も風呂に入らないことは別科学生にとって初めての経験であり、日常生活のありがたさを身にしみて感じたことであろう。入浴後全員で登山の成功を祝して昼食をおいしくいただいた。普段なにげなく食べていることも、ありがたさが増してくるから不思議なものである。昼食後自由時間をとり、15:30ナガサキロッジ出発、18:00西門到着後流れ解散とした。今回の登山実習で感じたことは、自然の中での班の協力体制の確立や時間厳守の重要性をより強く感じた実習であった。

#### 4. 結果及び考察

##### 1) 自然について

表1の自然の中で楽しい体験ができましたかの問いには、思う、少し思うで83.3%の学生が楽しい体験ができたと答えている。また、表2の家や学校では学べないことが学べましたかの問いには、88.1%の学生が学べたと答えており、実際に自然の中での実習により、多くの体験を通して山の緑の美しさや沢の水の冷たさ、きれいさを身をもって感じたことであり、普段の生活では味わえない経験によって、高率の結果をもたらしたと考えられる。表3の星座観察は楽しかったですかの問いには、64.3%の学生が楽しかったと答えており、他の質問に比べてやや低い率を示しているが、星に興味がある学生は2日目に満天の星空に感激して、さらにペルセウス流星群の流れ星を沢山見ることができた感想文にも強調し、天の川や夏の大三角形を初めて見たという学生が感激していたことが思い出される。

次の文章は学生の感想文からの引用である。

- ・私が最も感動したのは、ヒュッテの庭で夜眺めた、満天の星空である。3日目の明け方に流星群が接近していたらしく、それは本当に幸運なことであった。月が沈んだ午前3時頃、冷たい空気の中で、なんとなく怖くなってしまふほど美しい星空を眺めることができた。流星群の接近に合わせて、数え切れぬほどの流星を見ることができ、私にとって一生心に残る体験であった。

この感激を将来子ども達にも是非伝えて欲しいものである。

表4の綺麗な花を見て楽しかったですかは、69.0%の学生が楽しかったと答えているが、この8月の実習では6月頃に沢山咲く高山植物に比べて、咲いている花が極端に少なく限られており、このような結果になったものと考えられるが、きれいな花や木について次のように学生は述べている。

- ・もうすぐ黒沢ヒュッテにつく頃になってやっとなだらかの山を見ることが出来た。改めて周りの景色をみると草木の青々としている中にきれいな色を身にまとった花々があり、さわやかな風があることに気づき夏の

訪れを実感した。

このように、実際山に登ってみて初めて実感できることが沢山あり良い思い出として心に残ってほしいものである。

## 2) 眺めについて

表5の黒沢の眺めは良かったのですかの問いには、83.3%の高率を示しており、写真2のような市内を離れて自然の中での黒沢の透き通った水に感激し、岩と水と木々のコントラストに学生達は感嘆していた。黒沢ヒュッテや火打山山頂の眺めについては、表7、表8からもわかるようにそれぞれ78.6%、69.0%を示しており、予想より少し低い率であったが、学生の感想文には

- ・山はとてつごいパワーを持っている気がしました。山のパワーはそれだけではありません。頂上に近づくとつれ、緑、花、池などのとてもきれいな風景が私を元気づけてくれました。このように、ただ山に登るだけでなく山を体で感じながら登ることができ、頂上から眺める景色、黒沢ヒュッテにみんなでたどり着いたときの思いはなんとも言い換えることができないほどの達成感でいっぱいでした。
- ・妙高は山が深く、自然の景色が素晴らしかった。2日目の火打山の尾根からは、下の山々や雲を見下ろすことができた。遠くに海も眺めることができた。8月だというのに、まだ雪が残っていることにも驚いた。

以上のように述べており、写真5、6、7からも山のすばらしさが伝わってくる感じがする。しかし、今回の実習では、3名の学生が靴のトラブルを起こした。それは、母親の登山靴を借りてきたが、ナガサキロッジで登山靴のソールがはがれてしまい、使用できない状態なのでナガサキロッジで靴を借りたのが1件、火打山に行く途中の高谷池ヒュッテで、靴のソールがはがれてしまい登山不可能になりそこで待機せざるを得なかったのが1件、登山途中でやはりソールがはがれてきたので、靴の応急手当てをしてからうじて登れたのが1件あり、いずれの靴も何年も履いてなくて丁寧にしまっておいた靴であり、これが登山途中で発生したならば、学生の混乱を招いたり、遭難や事故にもなりかねない事態となる可能性を含んでおり、今年の登山実習での靴に対するアドヴァイスの徹底が反省点として挙げられる。

## 3) 集団生活について

今回の登山実習のねらいの一つである、集団生活については、表9から78.5%、表10の交流は深められましたかの問いには88.1%、表11のみんなで協力することはできましたかの問いには95.2%とそれぞれ高率を示しており、

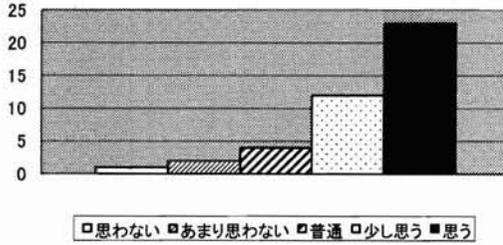
- ・わたしは今回の登山で、仲間と協力する大切さを学ぶことができた。私の班は他の班に比べて進度がややゆっくりであった。しかし、登山では、遅いとか早いとか、そんなことは関係ないことだと思う。ゆっくりでも班全員で一緒に笑顔でゴールできた時が私は最もうれしかった。登山は、一人で楽しむのも良いが、皆で協力して一つの目標を達成する事ほど素晴らしいことはないと思う。登山を通して仲間の大切さを改めて感じた。
- ・どんなに辛く大変でも最後まで挫折できなかったのは一緒に登山をした仲間がいたからだ。自然の中で色々な発見をして一緒に感動したり、お互い支えて励まし合ったり、同じ目標に向かって必死に頑張るみんなの存在の大きさや大切さにも改めて実感した。

と述べている。2泊3日の登山実習において、集団生活はだいたいうまくいったと学生は感じており、山小屋の不便さや登山の苦しさはあるものの、それ以上に、交流が深まったことや、仲間のありがたみや大切さを痛烈に感じ取った実習であったと言える。

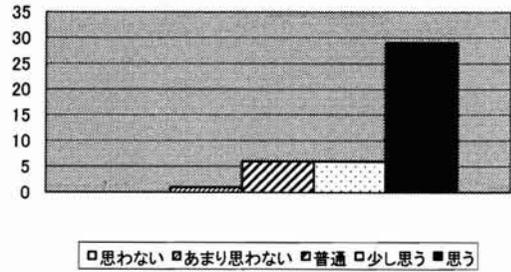
## 4) つらかったことについて

今回の登山実習では、実際に体験して学ぶことが多くあり、また楽しい事や感動することが多い中、つらかったことも多々あったはずである。表13にある虫に刺されたことは、52.3%約半数の学生が感じており、表14のよく眠れなかったについては、思わない、あまり思わない、普通を合計すると69.0%となり、登山の疲れもあり集団生活で山小屋の限られたスペースの中でも約7割の学生は眠れたと答えている。睡眠は次の

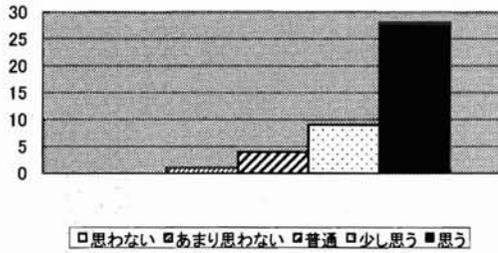
表一 自然の中で楽しい体験ができましたか



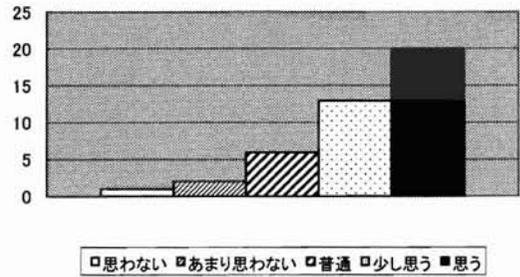
表一五 黒沢の眺めは良かったですか



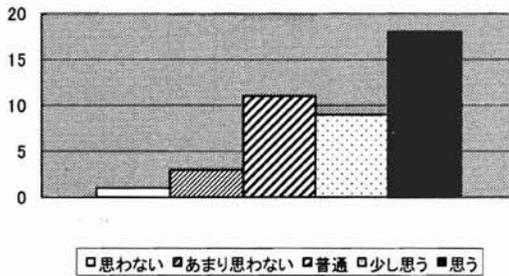
表二 家や学校では学べないことが学べましたか



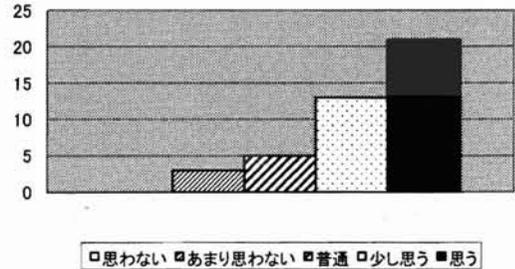
表一六 富士見平の眺めは良かったですか



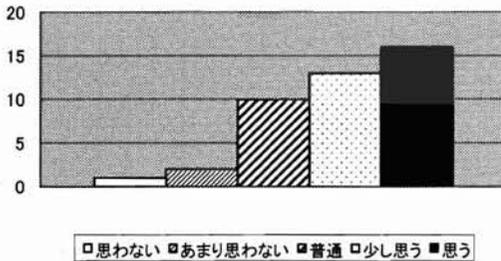
表三 星座観察は楽しかったですか



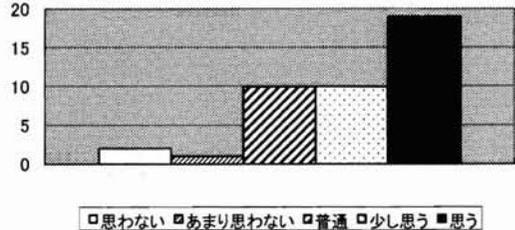
表一七 黒沢池ヒュッテの眺めはよかったですか



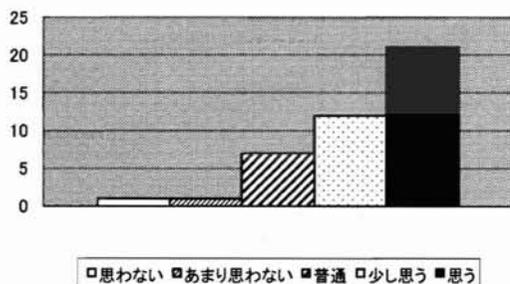
表四 綺麗な花を見て楽しかったですか



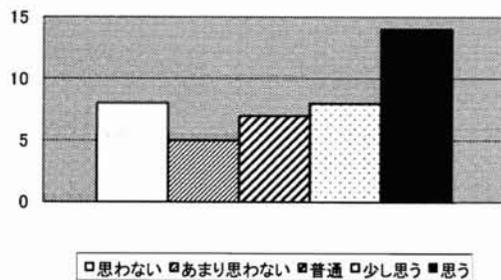
表一八 火打ちの眺めは良かったですか



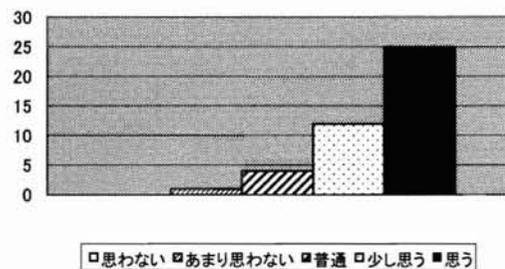
表一〇 集団生活はうまくいきましたか



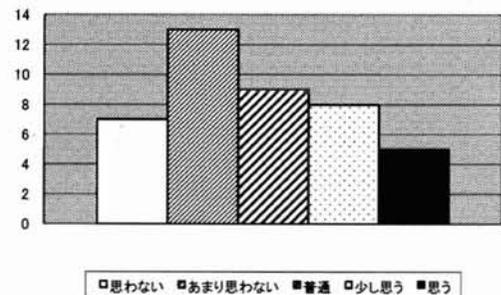
表一三 虫に刺されたこと



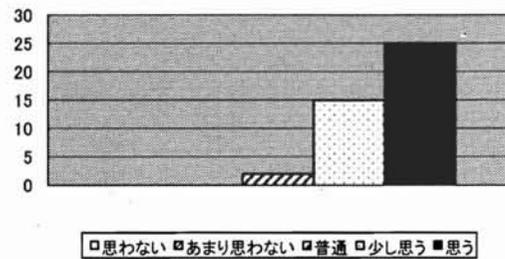
表一四 交流は深められましたか



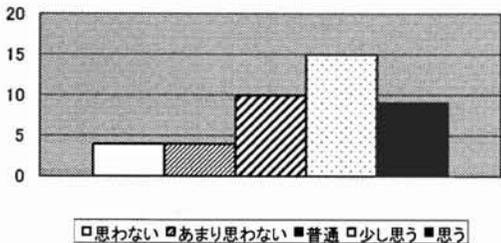
表一六 よく眠れなかったこと



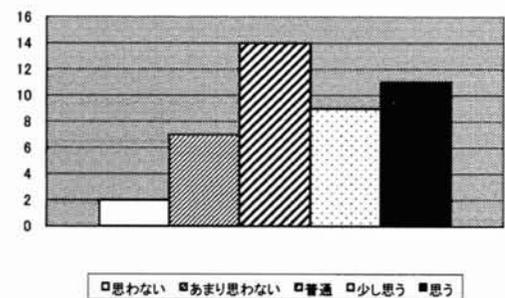
表一五 みんなで協力することはできましたか



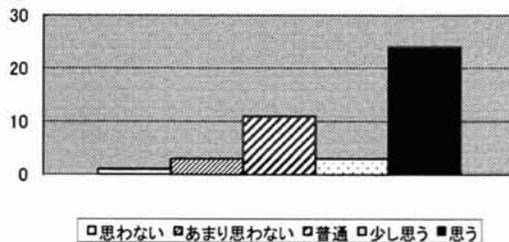
表一七 朝早起きすること



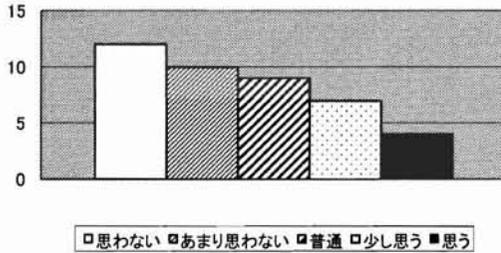
表一八 集団で生活したこと



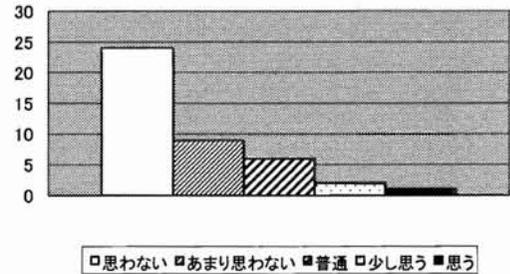
表一九 班の人と協力できなかったこと



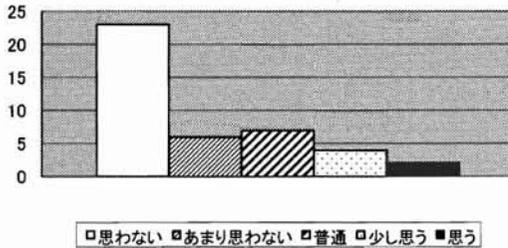
表一17 長時間歩いたこと



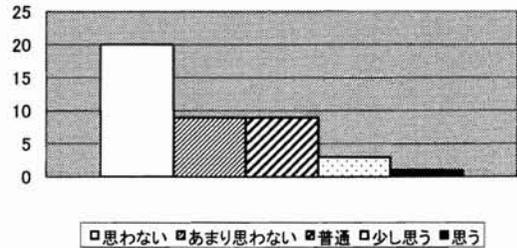
表一19 トイレが汚かったこと



表一18 お風呂に入れなかったこと



表一20 荷物が重かったこと



日の行動にも影響するので、しっかりと確保させなければならない。表15の朝早起きすることもあまり苦にはならなかったようである。表18のお風呂に入れなかったことや表19のトイレの問題に対しては、実習中は2日間も風呂に入れなかったし、トイレは水洗ではなかったが、思わない、あまり思わない、普通がそれぞれ、85.7%、92.9%の高率を示しており、学生の感想文から

- ・ヒュッテに着いても、疲労を癒すためのお風呂はないし、水洗便所ではないので臭いが強烈だし、ふかふかのベッドもない。それでも、楽しかったといえるのだ。好天に恵まれ、爽やかな高原の夏の風を体の隅々まで感じる事ができた。仲間と、楽しいおしゃべりをして、励ましあい、助けあい、支えあいながら、人の優しさを感じた。

と述べているように、学生は山小屋ということで理解していたものと考えられるし、環境保護の立場からも良い結果といえよう。

さらに学生は、将来養護教諭として学校に勤めたら、

- ・養護教諭となり子ども達の引率で登山をする機会があれば、自分たちが普段生活している環境と山の中での環境の違いについて考えさせたいと思う。その事から、自分達が自分達を管理する事の難しさと大切さを教えていきたい。
- ・登山を経験しながら、自分が養護教諭になったときに、生徒に登山について事前に指導しなければならないことは何か、付き添う中で、何に注意しなければならないのか、などを考える時間を持つことができた。
- ・自分が養護教諭として児童・生徒と共に遠足などで登山する機会も今後出てくると思われるが、その際に登山を不得手とする子どもたちも沢山いるはずである。その子どもたちが安全な登山が出来るように、また苦しいだけの思い出とならないように配慮するのも一人の教員としての役割だと思う。

このように今回の登山実習で学んだことを、将来養護教諭として生かしたいと述べている。

## 5. まとめ

新潟大学養護教諭特別科学生の登山実習について述べてきたわけであるが、今回の実習について次のようにまとめることができる。

- 1) 今回の登山実習は、全員が無事下山できたことの要因として、班の仲間の協力や助け合いが非常に大きいと言える。
- 2) 実際に登山を体験して、自然のすばらしさや大変さを身をもって経験することにより、今後に生かすことができる。
- 3) 登山に対する用具の重要性についてのアドバイスを徹底しなければならない。
- 4) 将来、養護教諭としてどのように行動していくべきかを考える良い機会となった。

## 6. 参考文献

- 1) 野外活動その考え方と実際 2001 杏林書院
- 2) 野外教育に期待される効果について—新潟大学公開講座の事例から— 2003 新潟大学教育人間科学部研究紀要 第5巻第2号
- 3) 山の用具研究 1985 山と溪谷社